

岩井廃寺塔跡(鳥取県岩美郡岩美町)

岩井廃寺塔跡は蒲生川右岸の山裾に立地する白鳳期創建の廃寺塔跡/岩井小学校の玄関前に凝灰岩製の心礎が残っており、地元では「鬼の腕」と呼ばれている/前方には神社の階段が見え、右手には説明板が立っているのが見える



左手は岩井小学校之跡



右手には説明板が立っているのが見える



鬼の腕(岩井廃寺塔跡の心礎)と神社(式内社 御湯神社)の表示



岩井廃寺「みろくじ弥勒寺」塔跡由来

弥勒寺は今から約千二百年前の白鳳期に創建されたもので礎石は三重塔の心礎石であり古くより「鬼おにの碗わん」と呼ばれている。

この礎石は横三メートル六十三センチ、縦二メートル三十六センチの日本最大級のもので、円口外縁に高さ三センチ、一辺一メートル四〇センチの方形造りだしをもつ白鳳期の特徴を示しており、出土瓦も白鳳期より平安初期にわたる三種に分類され、寺院修築の年代を示すものと注目されている。

付近には金堂が建立されていたと思われる「みろくどう弥勒堂」、南におよそ百メートルの「大門」などの地名はかつての寺院規模を考えさせる。

昭和六年十一月二十六日、史跡として文部大臣の指定を受けている。

平成十八年八月 岩美町教育委員会

前方がその心礎



正方形の柱座が造りだされ、その中央に柱孔がある/柱孔の底には舍利孔が穿たれていると云う



別の角度から



ここが御湯神社



平安初期の弘仁二年(811年)創建の式内社

式内社しきないしゃ

御湯神社みゆじんじゃ

鎮座地

岩美町岩井字宮谷

御神紋

丸に左三つ巴

例祭日

四月二十五日

秋祭

十月十三日

式内社は延喜式神名帳に記載された神社で

当御湯神社は遠く古代からこの地域(巨濃郡大野郷)の中心として鎮座した由緒ある神社とされている

創建 平安初期の弘仁二年(八一年)と推定される

御祭神

御井神

大国主命の御子

大己貴命

大国主命の別名

八上姫命

御井神の母神

猿田彦命

天孫降臨の先導役の神

また、境内には拜殿の右に稲荷、左に藤ヶ森の境内社と能登守平教経の矢研石(伝承)がある

稲荷神社

御祭神

宇賀魂神

藤ヶ森神社

御祭神

別雷神

参考ホームページ

http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/bunkazai_web_view/6943E15BC5EBF4AD4925796F0007FD03?OpenDocument

http://tottorijou.skr.jp/history/iwami/iwai_uenoyama/iwai_uenoyama_01.html

